

# 特集「粉体に関する標準化・規格化」を企画して

特集担当編集委員 伊ヶ崎 文和

(社)日本粉体工業技術協会では粉体の標準化・規格化に古くから取り組んでいる。産業のグローバル化を迎えた今日、標準化・規格化は著しく重要性を増してきており、産業技術開発と関連する標準化・規格化は車の両輪という表現がその重要性を端的に表している。

本特集号はこのように今日その重要性が認識されてきた「粉体に関する標準化・規格化」であり、その内容を簡単に紹介する。

まず、**経済産業省産業技術環境局産業基盤標準化推進室の小田 宏行氏**から「基本技術分野の国際標準化について」と題して、新成長戦略をはじめとする近年の代表的な政策に占める国際標準化の重要性について解説していただいた。新成長戦略の別表「成長戦略実行計画（工程表）」には国際標準化戦略の推進が具体的に記載されており、2020年までに実現すべき成果目標には、戦略分野における国際標準獲得を通じた日本企業の国際競争力強化が明記されている。大きな流れを読み取って欲しい。

次いで、具体的な粉体に関する標準化・規格化に関するものとなる。順序としては、ISO 関係、ISO 規格の JIS 規格化（粒子特性評価 ISO/TC24関連）、ナノテクノロジーに関連する ISO/TC229関連、協会に關係する規格・標準粉体關係とした。

(独)産業技術総合研究所の**遠藤 茂寿先生**には「ISO/TC24/SC4における国際標準化の現状と動向」に関し、ISO での規格化までの流れから始まり、ISO 規格の JIS 規格化などの現状について紹介いただいた。ISO での規格化までの流れを表した図-1 (p. 26) は ISO に馴染みのない読者にも規格化までがわかりやすく図示されている。

ISO 規格からの JIS 規格化に関しては、それぞれ JIS 規格化にご尽力いただいた大学の先生にお願いした。**宇都宮大学大学院の鈴木 昇先生**には「ガス吸着による粉体（固体）の細孔径分布および細孔特性の測定方法」と題して、ISO 15901-2および-3から JIS Z 8831-2および-3を制定された際に経験された紆余曲折を含めて、紹介・解説いただいた。**同志社大学の森 康維先生**には ISO 13319を基本として、内容を再構成して制定した JIS Z 8832「粒子径分布測定方法－電気的検知帯法」について解説いただいた。さらには**金沢大学大学院の大谷 吉生先生**には ISO 13322-2を基にして作成された JIS Z 8827-2について、「動的画像解析法（ISO 13322-2、JIS Z 8827-2）」と題して解説いただいた。それぞれに ISO から JIS を制定する場合の苦労話があって単なる翻訳ではないことが良くわかる。

「ナノ粒子、ナノ材料に関する ISO 国際標準化動向」と題して、**JFE テクノリサーチ(株)の柳下 皓男氏**には今、注目を集めている、ナノ材料を含むナノテクノロジーに関する技術委員会である ISO TC229について、歴史的なことも含めて紹介・解説をお願いした。ISO 関係の英文標記に関し、仮訳でも良いからできる限り日本語訳をとの編集事務局からの注文を快諾していただいた柳下氏には厚くお礼を申し上げる次第である。

協会関係に関して、標準粒子および粉じん爆発関係を取り上げた。**広島大学大学院の吉田 英人先生**には「粒子径測定装置の検定用の標準粒子に関する動向」と題して、協会が扱っている多分散標準粒子について紹介いただくと共に、(独)労働安全衛生総合研究所の**山隈 瑞樹先生**には2010年3月に協会規格となった「可燃性粉じん・空気混合気の最小着火エネルギー測定方法」について、最小着火エネルギー測定の原理とともに協会規格の解説をいただいた。

本特集は(社)日本粉体工業技術協会の規格委員会委員長であり、本号の執筆者でもある遠藤茂寿先生に企画段階から大変お世話になった、改めて感謝する次第である。なお、今回は粉体に関する標準化・規格化について、特集号ということになったが、今後は必要に応じて、よりタイムリーに個別記事として本誌に掲載することも考えている。